

令和４年度 市民憲章推進協議会 いただいた御意見

協議会開催日：令和４年４月２７日（水）

参加者：協議会委員（１３名）、オブザーバー（２名）

■京都市市民憲章の実践目標、推進テーマに対する御意見・感想等

・実践目標５について、ホテル等の建設により立て続けにまちが変わっていくという中で、地域の皆さんから少し不安が出ているようです。その辺りに配慮されて、市民生活と調和した持続可能な観光の推進を明記していただいていることにまず安心しています。コロナ収束後に向けて、観光のあり方、誘客について再構築ができるような機運を市民ぐるみで盛り上げていければいいと感じます。

・実践目標３の新型コロナウイルス感染症に関する部分ですが、昨年は本当に皆さんが大変な状況だったと感じています。記載されている「「ありがとう」「おかげさま」「お互いさま」の真心をもち」という部分について、去年１年間はまさにそのように過ごしたなと感じています。

・実践目標４について、京都市は人口の１割が学生で、学生が大きな割合を占めています。そこで、実践目標４にある「京都の文化」には、「学生文化」も含まれると考えています。学生団体が作った創作踊りが市外でも知られるようになってきています。学生文化というところにもぜひ注目いただきたいです。

・実践目標２について、賞味期限や消費期限が近いものから食べようという取組が、京都市の主な取組として挙げられています。これは、京都市民の行動例としても挙げてもよいのではないかと思います。

・「町家の維持」をどこか実践目標に入れてもよいのではないのでしょうか。町家のような、古い建築物を維持することはＣＯ２排出の抑制、温暖化対策にも繋がると思います。

・実践目標２の具体的な取組に、自家用車から市バス・地下鉄などの公共交通へ転換していただく取組（ＭＭ活動※）の促進について追記できないでしょうか。これはＣＯ２排出量正味ゼロを目指した、環境にやさしい取組であると同時に、財政的に非常に厳しい、市バス・地下鉄を支える取組にもなると考えています。

（※）モビリティ・マネジメント活動とは…

当該の地域や都市を、「過度に自動車に頼る状態」から、「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に利用する状態」へと少しずつ変えていく一連の取組を意味する活動。

・我々の地域では、朝は特に、高校生の自転車通学が多い。一方で、道路が狭いところも多く、そこを通学する生徒さんもありおられる。そんな中で、歩道を走る自転車にはかなり気を使います。また、加えて、特に悪いのは、信号機のない横断歩道でも車が止まらないことです。自分の目の前で、児童生徒が大きな事故に巻き込まれるのではないかと、いつも危惧しています。こうした交通マナー・ルールが市民の中でなかなか守られていないと感じています。

・市民憲章を推進する活動をされている皆様にとって、市民憲章推進者表彰を受けることは、自身の活動に大いに力をもらうことにもなると思いますし、また、他の方々にも、こういう制度があるということを広めていただけるきっかけにもなりますので、非常に重要なものだと考えています。今、京都市におきましても、若い力が非常に薄れてきているように思います。このような貴重な表彰がありますので、若い世代の方にもっとアピールし、そして、活動されている方には、自分自身の活動に自信と励みを持っていただけるようにしていただきたい。また、各行政区の地元の学校においてもしっかりとアピールしていければと思います。

・実践目標2の行動例について、私は大学の近くに家があるのですが、4月になってから、ごみ出しのルールが守られないことが多く見られます。特に、新しい地区から引っ越してきた方や、海外の学生もたくさんいらっしゃると思うので、そういう方々にどのようにごみ出しのルール等のコミュニケーションを取っていくか、課題意識を持っています。

・実践目標3の行動例について、交通ルールの改善のため、例えば、教育機関と連携してできることなどがあれば取り組んでいただきたいと思います。

・実践目標1, 3に関連して、ポイ捨てや自転車の交通ルール等、大人が守るべきこと、子どもが守るべきことをもっとアピールしていけたら、良い都市になっていくのではないのでしょうか。

・市民憲章の推進、啓発についてです。東本願寺前の緑地整備や京都市立芸術大学の移転整備等、京都駅前開発が進むとともに、様々な要望が市民から出ています。どうしたら市民がそうした開発に溶け込んで、歓迎できるかが課題だと思っています。こうした状況だからこそ、市民憲章が市民の手により制定されたということをもっと皆さんが認識し、市民一人一人が自分事として考えていただけるようになればよいと考えています。

・実践目標3の「地域のつながり」に関連しての意見です。京都市には市政協力委員が8,300

人弱おられ、ほとんどの町内で4月に改選がありますが、各町内会での引継ぎがしっかりできていない気がします。自治とは自分で治めるということです。皆様には、町内会の活動をもっと大切にしていだきたいと思っています。

・実践目標3について、子どもは学校や家庭だけでなく、地域の見守りの中で育てていくものだと思っています。京都ならではの「はぐくみ文化」という言葉も、23ページにありますが、「はぐくみ文化」のルーツともいうべき番組小学校の創設も、まさに京都の地域から教育が出発していった歴史があります。子どもの教育活動と地域の繋がりというのは、切っても切れない関係にあり、これからも大切にされなければなりません。

地域の自治活動やPTA活動でも、昨今、様々な課題が出ていますが、その課題を克服しながら、将来を担う子どもたちをどう育てていくのかと言う意味で、この地域の「繋がりを大切にし」というところはとても重要であり、注目しています。

・銀行や大型商業施設等は、夏場になったら建物の中がすごく寒いことがあります。環境問題、エネルギー問題が言われるようになっていますが、実践目標2の「冷暖房を適切な温度に設定する」については、目標となる温度を記載することはできないでしょうか。

・実践目標2について、買い物袋について問題になっていますが、使い捨てのプラスチック容器について問題意識があります。プラスチック容器に多くのお金をかけて、それが全てゴミになるのはいかなものかと思っています。

・実践目標5について、観光マナーを旅行者の方にどのようにして伝えればいいのか、どういうふうに学んでいただくのがよいかを考えていくことで、よりお互いが尊重し合える観光地になると思います。

・今年度のテーマの中に「魅力あふれる」という言葉がありますが、これは京都市の先人の努力のおかげで魅力溢れる京都になっていったと思います。こうした魅力の継承については、学校教育の中でも取り組んでいかなくてはならないと思っています。人と環境にやさしいまちづくりを目指す子どもたちを育てていくことで、京都の魅力をさらにアップさせることに貢献できると考えています。

■その他（京都市政に関する御意見など）

・自分の子どものことで恐縮ですが、通学バスにお客さんがいっぱいに乗れず、遅刻をすることが頻発しています。市民憲章の推進により、そのような行政サービスがもっとクローズアップされていくことも期待しています。

・私は自転車を使うことが結構多いのですが、自転車を止める場所がなかなか無いと感じています。市として、既に対策はされているとは思いますが、そこは少し気になりました。

・「路上喫煙や吸い殻等のポイ捨てをしない・させない」について、今は喫煙ができる場所が市内では限られたところしかない状況ですが、逆に隠れて吸った吸い殻が路地等に非常に多く落ちています。喫煙場所を減らすだけでなく、路上喫煙、吸い殻をポイ捨てしないというところも含めた対策も必要ではないでしょうか。

・京都市内の観光案内について、何を見て行けばいいかという相談をよく聞きます。ガイドブックやパンフレットを取りに行ってもらい以外にも、スマホで検索できるよう、観光の順序や案内をモデルプランとして、市のホームページ等に掲載して、気軽に足を運んでいただけるようにしてはどうでしょうか。

・町内会等、地域の活動について、行政から地域への手出し・口出しが多いのではないかと思います。行政に相談し、それに答えていただくことは当たり前ではありますが、一方で、もっと「町内会で考えてください」と返していただいてもよいと思います。地域の人に知恵を貸す、という姿勢でアドバイスいただくことも必要ではないでしょうか。

・京都市の委託業者のごみ収集車が、高速道路に乗っていることがあります。私は、高速道路を使ってまで、焼却場に行くのはおかしい話だと思います。そこを削れるのであれば、予算を減らせるんじゃないかなと思います。

・フードロスについて、余って使えないとか、食べ切れない時どうしようといったことは皆様あると思うので、そういう食料を受け持ってくれる窓口があれば、フードロスは減るのではないのでしょうか。ホテルなんかでも、観光客の方が食べきれなかったごみ等が転用できたらフードロスが少なくなると思います。

・京都の文化について、例えば、マンションが多く、和室が少なくなっている。補助金や、地産地消の物を使うような施策、条例があれば地域活性化にもなるのではないのでしょうか。